

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390300014		
法人名	社会福祉法人 千寿福祉会		
事業所名	グループホームみすず		
所在地	岡山県津山市瓜生原326-1		
自己評価作成日	平成29年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障がい者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成29年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、「なんだかほっとするね みすずをたずねてみませんか?」という理念のもと、利用者様一人一人の身体状況や個性を大切に、住み慣れた環境づくりにも配慮し、安らぎをご提供することを大切にして運営しております。今年度は、①利用者様の心身の状態に応じて、出来る事はして頂く。②職員の知識の向上を図るため、外部の研修に参加したり、外部講師を招いて研修を計画・実地しています。③ご家族参加の行事を年3回行い、出来るだけ多くのご家族に来訪して頂き、本人様の様子を伝えるようにしました。常に職員同士が連携を取り、ご家族を始め、関係医療機関との連携を密にし、利用者様を中心としたサービスが提供できるように日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員一丸となって入居者一人ひとりの身体状況を把握し、寄り添い自立支援に向けたケアに取り組み家庭的な雰囲気の中、手作りの食事や日々の入浴にも入居者の気持ち、気分、楽しみなどを大切にした支援に努めています。内部研修等実施しながら職員の資質向上に努めています。入居者と家族との交流に向けて年間計画や日程調整を行い、多くの家族が参加しやすい工夫がなされています。職員との明るい雰囲気作りで入居者の表情も明るく、関連職種等とのより一層の連携による充実が期待できます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員全員が見ることが出来るように、事務所内に掲示してある。利用者様、ご家族、職員、外部の方々々に信頼されるよう日々邁進している。	理念にある「ほっとするね」を入居者の家族も含めて、ここなら安心すると言って頂けるように職員が理念を共有し支援に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流が少なくなって来ている。また関連施設等の行事への参加も少なくなってきている。	外出して、地域の交流会に参加することは少なくなったが、実習生の受け入れや、中学生の吹奏楽部の演奏会、ボランティアによるエイサー・二人羽織など披露してもらい地域の一員として交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域推進会議で利用者様の様子や認知症介護の話をしてアドバイスも頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの行事報告、予定を伝えている。そこで頂いた意見は職員間で話し合いを行い、利用者様の生活の向上に向けて取り組んでいる。	2か月に1回、行政担当者・家族の方々(参加しやすい日を聞いて)が参加しています。運営推進会議に地域の方々に参加できるように努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず参加して頂き、そこで意見交換を行ったり、疑問等があればその都度連絡してサービスの向上に繋げている。	介護保険情報や季節ごとの情報(インフルエンザの予防や脱水症注意など)を得たり、申請書の書き方(ご家族からの質問に対し)の問い合わせなどして、協力関係を築くように取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い、玄関の施錠は夜間のみとしている。出来る限り利用者様の気持ちを理解し対応するよう心掛けている。	鍵をかけていないので、玄関の職員入退出の折は大きな声で「おはようございます・お先に失礼します」と声掛けを徹底しています。また、内部研修などで身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止」の研修に取り組んでいる。職員間での「報連相」や声掛けをし利用者様のサービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の気持ちを大切に思いながら、その気持ちに添った介護が出来るよう心掛けている。成年後見制度についても研修の機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時に説明し同意を得ている。また契約内容に変更があった場合には速やかに連絡し、必要があれば同意の取り直しも行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様は普段の会話の中から意見を聞かせて頂き、ご家族様は面会時や行事・地域推進会議等に参加して下さった時に意見を聞かせて頂くようにしている。また電話等でも意見を聞かせて頂けるよう心掛けている。	入居者本人が他の入居者が困っていたりすると、職員に教えてくれて気付かせてくれます。また、家族からは疑問に思ったことを気軽に聞かれるので、そう言った会話から意見・要望を捉えるように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、調整会議・職員会議を開き、介護業務についての意見や要望を聞き、実行するようにしている。	職員一人ひとりが入居者の個別ケアに取り組み、統一されたケアを行えるよう心掛けています。日頃から職員間で意見を出し合い、より安全で快適に過ごせるよう意見の反映に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、2回責任者と職員一人一人が面接する機会を設け、本人の気持ちや意向を聞くようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	最近外部研修になかなか参加出来ない。その変わり、年に4回内部研修を行い外部から講師をお招きし学ぶ機会を設け、レベルアップが図れるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	なかなか他施設の方と交流する機会を設けられていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様が安心して生活して頂ける様に関わりを持ち、適切な対応が出来るように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お手紙を送ったり、面会に来られた時に様子をお伝えしている。ご家族の意向や要望を聞く事によって良好な関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所面接時に当サービスを利用することが適切であるかどうか検討させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の出来る能力を活かせるように支援し、お互いが支え合えるような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便りとして、2ヶ月に一度、ご家族へ本人様の様子を写真と一緒に送付している。また細めに連絡を取り、衣替えの依頼をしたり、受診に行って頂くようお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には、居室でゆっくりして頂けるようにしている。馴染みの場所や買い物には、なかなか行けていないので、もう少し出かけられるようにしていきたい。	住み慣れた自宅へ出かけた時、馴染みの場所でも不安になる方もいるのでそういう場合は、その方が通いなれたマーケットなどで買い物をして、話題を共有できるように支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で会話を楽しめるような席順を考えている。穏やかに過ごせるように、職員が間に入り、支援出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人様の生活の様子を観に行ったり、ご家族からの相談があった場合には、相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の日常での生活の中で、気づいた事や意向を取り組み、家族的な雰囲気の中で生活して頂き、一人一人の思いに傾聴している。	入居者の身体に良かれと思うことも(体操など)、本人がしたくない時は無理強いせず、臨機応変に対応してグループホームという団体生活が負担にならないよう支援に取り組んでいる様子が窺えます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴などを把握し、在宅時のケアマネージャーやご家族の情報を提供して頂くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の体調・行動・心身状態などを観察し、日常チェック表を記入し、個人記録や申し送りなどで情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議などで職員同士がよく話し合っており、計画作成担当者・管理者が主として介護計画を作成し、日常のケアに活かしている。	医療関係者の情報などを含め、本人の残存能力を引き出し維持できるよう、現状に即した介護計画に取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人記録・医務ノート・申し送りノートに記入し、気づいた事があれば職員間で意見を出し合い、情報を共有しケアの向上に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の様子で気づいた点などを個人記録に記録して、ご家族に報告し、要望などをお聴きして、職員間で情報共有し、ニーズを把握しケアに活かすよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なかなか地域との関わりは出来ていない。利用者様の体調の良い時は、買い物や外出が出来るように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックを行い、体調に変化があれば、かかりつけ医に相談して指示を頂いている。状況によっては、かかりつけ医からご家族へ説明して頂き、適切な医療が出来るように支援している。	定期的な往診もあります。かかりつけ医への受診は、家族の協力を得ながら行くなど、適切な医療が受けられるよう支援に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回、訪問看護師が来訪し、体調や状態を観て頂いている。何か変わった事があれば、訪問看護師からかかりつけ医に連絡し、受診出来るように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合、情報提供書を早急に作成し、また必要に応じて連絡を取り合い、適切に情報提供ができるようにしている。退院時には、病院からの情報提供して頂き、適切な対応が出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご家族と話し合い、要望を聞き、重度化の際には、かかりつけ医・訪看と連携を取り情報を共有し、退院時には病院から情報を提供して頂き対応するよう努めている。	事業所として看取りの経験はありますが、未経験の職員が心理的にダメージを受けないように、社内研修をして緊急連絡網をしっかりと活用してチームで支援できるように努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や勉強会を定期的に行い、マニュアルも目立つ所に配置して実践出来るようにし、職員会議などで話し合うようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は定期的に行っているが、その他の災害については不十分である。マニュアルは作成している。	定期的な火災訓練を行っていますが、地震やがけ崩れなどの避難訓練が不十分だと感じており検討しています。	火災の他、天災害時など隣接する法人施設と地域の方の協力が不可欠です。今後も連携を重視した避難訓練を行うことで、緊急時に対応できる組織作りを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の自尊心を傷つけないよう1人1人に合わせた声掛け・対応をしていくよう心掛けています。また命令口調にならないように気を付けています。	忙しいと言葉尻がきつくなりがちなので職員間で注意しながら、一人ひとりの個性に合わせた声掛けで誇りやプライバシーを損ねない支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から、利用者様の話を傾聴し、希望・思いを把握し、自己決定出来るように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の日々のペースを出来るだけ崩さないように見守り、支援していけるように心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様と買い物に行き、本人様に洋服を選んで頂いたり、着用する衣服も選んで頂いている。また散髪も本人様の希望をお聴きし散髪している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が、観て楽しくなるように色合いや、1人1人の好みの献立を考えている。利用者様がお膳下げ等、出来ることをして頂けるよう支援している。	家庭でよく交わされる「何が食べたい？」の会話から始まり希望に叶う料理を作ったり、うどんを麺から作ったり、巻きずしを作ったりして入居者の出来る楽しみ・食べる楽しみを大切にしている様子が窺えます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食べる量を考えたり、刻み、トロミを付けたりとその人に合った物を提供している。水分量も1日の目安を摂取して頂けるように声掛けをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕食後と利用者様に合った口腔ケアを行っている。また1週間に1回は入れ歯洗浄剤に付けて清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の体調を見ながら、時間を決めて声掛けやトイレ誘導を行い習慣づけている。	定期的なトイレ誘導することによって失敗が少なく、その都度、様子を見ながらトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に努めています。	職員間の連携の意味でも水分量・排せつの回数を記録することで、身体上の変化を早期発見し病状の悪化を防ぐことにつながります。さらなる支援を期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかりと摂取して頂いたり、トイレに行かれた際には、腹部をマッサージするようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ毎日、入浴が出来るように心掛けている。体調不良やご本人の希望により、清拭などを行っている。	土・日曜日も含めて、毎日入りたい人は入れるようにしています(ほとんどの入居者が毎日入浴しています)。また、入居者の中に入浴拒否者はおらず、体調に合わせた入浴を楽しみにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の掃除、シーツ交換を定期的に行い、気持ち良く休んで頂ける様に気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法、用量を理解しながら、日付、名前を確認し、服用して頂いている。体調に変化があれば、かかりつけ医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干したり、たたんで頂いたり、出来る事をお手伝いして頂いている。また簡単なゲームをしたり、塗り絵やパズルを出来る範囲ですて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、外出はほとんど出来ていない。少しでも外出が出来るようにご家族とも相談しながら支援していきたい。	日常的な外出は難しいが、施設の敷地内で外気浴をしたり、受診の帰り買い物や馴染みの場所に立ち寄ったり、家族と協力しながら外出支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別ケアの出来る方が少なく、なかなか外出が難しい状況である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の支援が出来ていない。2ヶ月に1回ご家族へ写真(塗り絵習字お手伝いなど)を付け近況など書いてお知らせしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時期に庭で咲いた花や野菜などを観たり、触ったり料理に使用するなど季節を感じて頂いたり、壁飾りを一緒に作って頂いたり、安定した生活を心掛けている。	フロアーからは台所仕事をする職員が見え、音・匂いを感じ、窓の外の大きな桜の木の移り行く季節を愛でながら、貼り絵など季節に応じた作品作りに励んでいる様子が窺えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共通の話や質問などで会話のきっかけを作ったり、その日の気分、体調によりゆっくり過ごして頂ける様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用しているタンスや、使い慣れた物や好みの物を置き、本人様の使い勝手のよいように家具などを配置し、心地よく過ごせるように支援している。	使い慣れたものや好みのものを一人ひとりの個性に合わせ、安全に配慮し、清潔で気持ちよく過ごせるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	普段のお話の中で好きなこと趣味など聞き、1日を楽しく過ごして頂くよう心掛けている。体調に合わせて出来る事をして頂き安心安全な生活が送れるよう支援している。		